

## 指定講演Ⅲ

### 2. 読影 & レポートニングの極意

筑波メディカルセンター病院 循環器内科  
仁科 秀崇

心疾患診断において、Nuclear Medicineの中核をなす心筋血流SPECT検査は、その読影の難しさから、時に「Unclear Medicine」と揶揄され、若手循環器内科医や放射線科医から敬遠されがちなモダリティーです。虚血性心疾患患者の予後改善を目的とした適切な治療方針の決定には、適切な診断が不可欠です。そのためには、適切な画像の取得・再構成をはじめ、アーチファクトの鑑別やハイリスク症例の見逃しを防ぐための読影スキルが求められます。さらに、得られた診断結果を現場の臨床医にどのように伝え、治療方針の決定に役立てるかというレポートニングのスキルも重要です。

本講演では、心筋血流SPECTの読影において、適切な診断を行う方法と、適切なレポートニングを通じて臨床医へフィードバックする方法についてお話しします。

#### 略歴

1994年 筑波大学医学専門学群卒業  
2002年～2005年 Cedars Sinai Medical Center, Cardiac Im. 08年～ aging, Clinical Research Fellow  
2006年 筑波メディカルセンター病院 循環器内科医長  
2008年 同診療科長  
2020年 同診療部長  
2022年 同副院長

現在に至る

#### ■所属学会・資格：

日本核医学会核医学専門医、日本心血管インターベンション治療学会専門医、日本循環器学会認定循環器専門医、日本内科学会認定内科医、経カテーテルの大動脈弁置換術関連学会協議会経カテーテルの大動脈弁置換術(TAVR)指導医